



海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートしています。

今回、バンコク駐在員事務所の山本所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question 1

現地の状況について 教えてください

A 現在のタイ経済は、安定した成熟国となった一方、ベトナムのよ
うな高成長国とは異なる成長戦
略が求められるステージに入った
と言えます。例えば、一人当たり
GDPは、タイが7,492ドル、
ベトナムが4,324ドルと依然と
してタイが上回っていますが、
2024年の実質GDP成長率
はタイが2.5%にとどまり、ベト
ナムの5.0%と比べて成長の勢い
に差が見られます。また、65歳以
上の人口比率はタイが14.7%、
ベトナムが8.6%と、タイの方が
高齢化の進行が顕著であり、今後
の経済成長も鈍化傾向が続くこ
とが懸念されます(図1)。

タイの主要産業である自動車
業界では、国内販売台数の落ち込
みに加え、不透明な世界経済の動
向もあり生産台数が伸び悩んでい
ます。同時に、EVシフトが進んで
おり日系車の販売シェアは大きく
低下しています(図2)。一方で、

主要項目	タイ	ベトナム
人口	6,605万人	10,031万人
65歳以上人口割合	14.7%	8.6%
一人当たりGDP	7,492ドル	4,324ドル
GDP成長率	2.5%	5.0%
日系企業数	6,083社	2,050社

図1:タイとベトナムの主要指標比較

(出所: World Bank, JETRO)

タイ自動車業界を牽引してきた
日系企業の存在感は依然として
大きく、現在日系企業全体では
6,083社が進出しており、これ
はベトナムの2,050社を大き
く上回っています。さらに、現地企
業とのサプライチェーンネットワ
ークや信頼関係は、今なお強固で
す。これは他国では容易に再現で
きない、タイにおける日系企業の
大きな強みといえるでしょう。

もともと、こうした強みがある
一方で、経済成長の鈍化や、成熟
に伴う社会課題の転換にどう対
応するかが、今後の日系企業のタ
イにおけるビジネス展開において
は課題と言われており、このよう
な状況を踏まえると、これまで
に培われたタイの強みを土台にし
つつ、新たな事業モデルへの移行が
求められるのではないだろうか。
実際に、こうした変化にいち早く

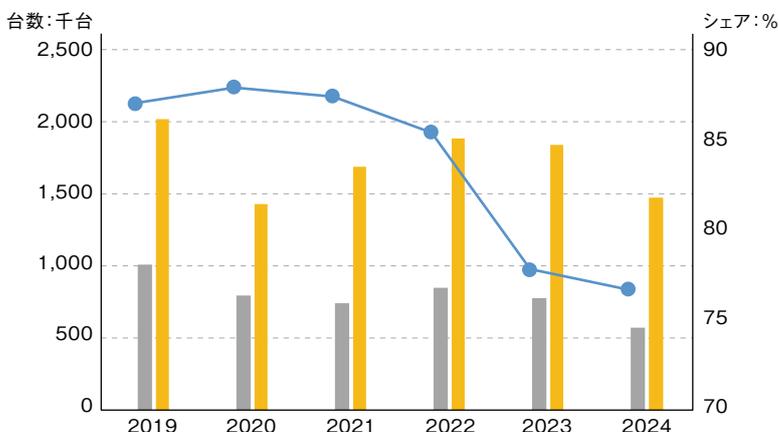


図2:自動車業界の動向

■ 自動車販売台数 ■ 自動車生産台数
● 販売における日系シェア

Question 2

対応し、自動車分野から環境関連分野へと事業を展開した日系企業の事例も見られます。次のパートでは、その具体的な取り組みをご紹介します。

現地企業の声を聞かせて下さい

(ニシヨリタイランド 伊藤社長)

A タイ・チョンブリ県にある「ニシヨリタイランド」の伊藤社長に話を伺いました(写真1)。

【伊藤社長】

弊社は、福岡県久留米市に本社を置く「ニシヨリ」の海外生産拠点として、2012年に設立されました。ブレーキホースなどのゴム製品に使用される工業用繊維を、日本品質で加工・販売しています。

近年の取り組みとして、2024年にパルプモールド(※植物繊維を原料とした成形包装材料・容器)製品を企画・販売する新会社を立ち上げました。高級



写真1: Nishiyori (Thailand) Co., Ltd. 第三工場

化粧品や家電など、包装資材にコストをかけられる高単価製品向け市場をターゲットとしています。

この新事業は、脱プラスチックという市場の変化をビジネスチャンスと捉えたものであると同時に、これまでの自動車関連分野に加えて事業領域を広げ、中長期的な企業の安定性と柔軟性を高める狙いがあります。しかしその最大の目的は、グループ全体の従業員に「新しいことに挑戦する意識」を持ってもらうことです。既存の事業を大切にしながらも、環境変化に対応できるように、従業員が主体的に課題を発見・解決できる組織を目指しています。

Question 3

海外ビジネスを目指すお客さまへメッセージを願います

A タイは長年、日系企業の製造拠点として存在感を示してきましたが、前述のように、近年は経済成長の鈍化や高齢化、自動車産業構造の変化など、かつてとは異なる課題に直面しています。一方で、エコ意識の高まりによるパルプモールドの需要増加のように、成熟した市場だからこそ生まれる新しい需要や変化の兆しも見られています。

今回ご紹介したニシヨリタイランド様のように、「現地ニーズの変化を捉え、新たな一歩を踏み出す」取り組みは、これから海外ビジネスを検討される皆さまにとっても大きなヒントになるのではないのでしょうか。FFGでは、こうした変化の芽を共に捉え、現地での事業展開・調査・人材戦略に至るまで、お客さまの挑戦に伴走してまいります。



現地のおすすめや過ごし方を
ご紹介ください

バンコク中心部の高級モールド「セントラルエンバシー」内にある「SHA Tea house」は、抹茶好きにはたまらない癒しの空間です。京都宇治産の抹茶を使ったラテやかき氷、上品な和菓子まで揃い、タイらしい暑さの中で、和の清涼感が楽しめます。

現地の若い世代や感度の高いタイ人にも人気で、SNS映えを狙って訪れる人も多く見られます。洗練されたモダン和風の内装も印象的で、買い物途中のひと休みにぴったり。静かな時間を過ごしたいとき、バンコクで日本の「抹茶文化」を感じられるおすすめスポットです(写真2)。



写真2: 現地過ごし方